

知っ^{トク}と便利！薬の飲ませ方

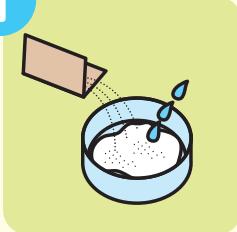
粉薬の
場合



「苦~いっ！イヤイヤ！」赤ちゃんに薬を飲ませるのはとっても大変です。多くのお母さん・お父さんが苦労されています。これから紹介する方法を試してみてください。



1



小さな容器に移し、湯ざましを加える

1回分をすべて小さな容器に移して、少しずつ湯ざましを加えていきます。
※2種類の薬を混ぜると苦みがでるものがありますので、注意してください。

2



ペースト状になるまで練る

清潔な指でよく練り、ペースト状にします。湯ざましの量が多すぎるとトロトロになり口の中に塗りつけにくくなります。

3



ほおの内側か上あごに塗りつける

練った粉薬を指でく取って味を感じにくいほおの内側や上あご、舌の奥のほうにすばやく塗りつけます。

4



口の中に残らないよう湯ざましを飲ませる

口の中の薬をすべて飲みこめるように、湯ざましを飲ませましょう。

★イヤイヤには……
好きなものに混ぜてごくん

塗りつけようと思っても、薬がイヤで口も開いてくれないことがあります。そんなときは、好きな食べ物に混ぜてごまかす手も。ただし、ましてはいけないものもあるので、必ず医師や薬剤師さんに相談しましょう。



ミルクにまぜてはダメ！

ミルクは赤ちゃんの主食！薬の味のせいで、ミルクが嫌いになってしまっては大変です。いくら薬が嫌いでも、ミルクにまぜるのはやめましょう。



●子どものぜん息&アレルギーシリーズには以下のような冊子があります

- 1.アレルギーってなに？ 5.日常生活で気をつけることは？ 9.食物アレルギーって？
- 2.ぜん息ってなに？ 6.住まいの掃除はどうするの？ 10.アトピー性皮膚炎って？
- 3.もしかしてぜん息？ 7.運動はしているの？
- 4.発作がおきたときは？ 8.薬を服用するときは？

<発行> 独立行政法人環境再生保全機構

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワーTEL:044-520-9568

もっと詳しい情報は

<http://www.erca.go.jp/asthma2/>

ぜん息などの情報館

検索

薬を服用するときは？

子どもの
ぜん息&
アレルギー
シリーズ

8



<監修> 天理よろづ相談所病院 小児科部長 南部光彦



独立行政法人環境再生保全機構

ぜん息の薬には、どんな種類があるの？



ぜん息の薬は、発作を予防する①長期管理薬と
発作がおきたときに発作をしめる②発作治療薬の2種類に分かれています。
また、ぜん息には吸入薬がよく使われます。吸入薬は直接、気道に届いて作用するため、
飲み薬に比べて少ない量で効果があり、全身への副作用も少なくてすみます。

①発作を予防する「長期管理薬」

毎日継続的に使用して、気道の炎症をおさえ、発作を予防します。
「長期管理薬」は長期間使用しても、できるだけ害がないようにつくられた薬です。医師から十分な説明を受けて、不安な気持ちを取りのぞき、決められた分量や回数をきちんと守って使ってください。

「長期管理薬」とは

- ぜん息治療の基本
- 症状の有無にかかわらず、定期的に使用
- すぐに効果があらわれない

1日、2日、3日・・・10日・・・20日・・・

まいにち
つづけるよ

種類

<吸入ステロイド薬>

気道の炎症をおさえる薬です。



キュパール、パルミコート、フルタイドなど

<長時間作用性β2刺激薬>

気管支を広げる作用があります。
吸入ステロイド薬といっしょに使用して、
吸入ステロイド薬の効果を上げます。



セレベントなど



ホクナリンテープなど

吸入ステロイド薬と
長時間作用性吸入β2刺激薬を
1つにした合剤があります。



アドエアなど

<抗ロイコトリエン薬>

ぜん息ではロイコトリエン※が悪さを
することがよくありますが、
このロイコトリエンの働きをおさえます。



オノン、キプレス、シングレアなど

※ロイコトリエンとは、慢性の炎症、気管支の収縮、ぜん息症状の悪化に関与している重要な化学伝達物質です。

<その他の抗アレルギー薬>

アレルギー反応を
おこりにくくします。



インタールなど



アイピーディー、アレギサール、ザジデン、
ゼスラン、セルテクト、ニポラジン、
ペミラストン、リザベン、ロメットなど

<テオフィリン徐放製剤>

気道の炎症をおさえる薬です。「徐放」とは、徐々に
吸収されて効果が長くづくという意味です。たくさん飲むと
気管支拡張作用があらわれ、また重篤な副作用もおこります。



テオドール、テオロング、
ユニフィルなど

使い方

分量や回数はきちんと守りましょう。勝手に薬の量を減らしたり
止めたりしてしまうと、ぜん息が悪化してしまうことがあります。

②発作を止める「発作治療薬」

ぜん息の発作がおこったときに使うのが「発作治療薬」です。発作時は、気管支の筋肉の収縮や粘膜のむくみにより気道が狭くなり、空気が通りにくくなって息が苦しくなります。発作治療薬は、狭くなった気道を広げる効果があります。



ポイント

- 発作時にのみ使用
- 即効性ですぐに効果があらわれる
- 吸入回数、分量をしっかり守る



種類

<β2刺激薬>

交感神経を刺激して気管支を拡張させます。



ベネトリン、ベロテック、メブチンなど



アスブール、アイロミール、サルタノールなど



アトック、スピロベント、ブリカニール、ペラチン、ホクナリンなど

<キサンチン系薬>

長期管理薬で使用されるテオフィリン徐放製剤と同じ種類ですが、短時間で効果のあらわれる即効性の薬です。



テオドリップ、ネオフィリンなど

<ステロイド薬>

発作が持続したり、強い発作の場合は、炎症をおさえるために使用します。



プレドニン、リンデロンなど



サクシゾン、ソルコーテフ、ソルメドロールなど

使い方

指示された分量や回数はきちんと守りましょう。誤って大量に服用すると、重篤な副作用が出て、死に至ることもあります。小さい子の手の届かないところに置くなど、慎重に扱いましょう。



吸入器は、どんな種類があるの？

気道に直接届いて作用する吸入薬には、吸入器を使います。
吸入器には、ネブライザーと定量吸入器の2種類に分かれています。



■ネブライザー 専用の機械で薬剤を霧状にして吸入します。

- 乳幼児の吸入に適している
- 薬の量が調整できる
- 大型
- 電源必要
- 高価



■定量吸入器 ボンベを押して噴射した薬剤を吸入する加圧噴霧式と、粉を勢いよく吸入するドライパウダーがあります。

- 軽量・小型
- 電源不要
- 乳幼児では吸入が難しい



乳幼児は、噴霧式の定量吸入器では「噴霧のタイミングに合わせて薬液を吸いこむ」という動作が上手にできないため、スペーサー（吸入補助器）を使用しましょう。薬液をスペーサー内に吹きこみ、それを自分の呼吸に合わせて吸入することができます。

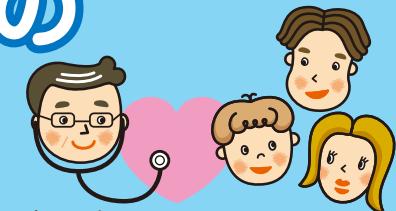
■主なスペーサー

年齢によっても
使うスペーサーが
違うらしいわ



お薬に関してのQ&A

「勝手に判断しない」、ささやかだけれど大切なことです。
疑問や不安があったら、担当の医師や薬剤師さんに相談してみましょう。



Q 最近、発作が
おきていません。
薬をやめても
いいですか？



A 発作がおきなくなったり、軽くなったりすると、自分で勝手に薬を使うのをやめる人がいます。これでは、ぜん息は良くなりません。コントロールが良ければ発作もなく、呼吸も安定した状態になりますが、それでも、ぜん息のもともとの原因である気道の炎症はつづいているのです。医師の指示があるまで、定期的に薬をつづけてください。

Q 薬を嫌がる子どもに
薬を飲ませるために
どうすれば
いいですか？



A 薬を飲む時間を、楽しい時間だと思わせる工夫をしてみましょう。たとえば、絵本を読みながら飲ませたり、飲み終わったら褒めてあげましょう。飲ませるときには「これを飲んだら元気になるよ」と飲む理由を簡単に明るい表情で説明します。怖い顔をして「早く飲みなさい」と無理強いすると、子どもは薬を飲むのが嫌になってしまいます。

